

第8回相模原市行財政構造改革本部会議 会議録

日時 令和2年3月18日(水)午前10時15分～

会場 第1特別会議室

出席者 市長、下仲副市長、隠田副市長、森副市長、教育長、総務局長、企画財政局長、企画財政局理事、危機管理局长、市民局長、健康福祉局長、こども・若者未来局長、環境経済局長、都市建設局長、緑区長、中央区長、南区長、議会局次長(代理)、教育局長、消防局長

開会のあいさつ

1 市単独扶助費の総合評価(事務局案)について

事務局より、議題について資料に基づき説明。

- ・国の法令等による義務付けのない、本市が任意に行うものを対象とした。
- ・評価は「普遍性」「有効性」「効率性」の3つの観点から行う。
- ・本日は事務局案を提示したが、今後、所管局と調整を行っていく。

<主な質疑>

事業の見直しに当たっては、個々の施策を評価するだけでなく、関連する施策全体の中で、どのような見直しが可能かを見ていくことが必要と考える。

また、扶助費にとどまらず、報償費や委託料、国民健康保険事業特別会計の法定外繰入金など、民生費に関わる分野を広く見た中で、見直しを進めていきたい。

併せて、条例に基づき実施している施策については、段階的な見直しも検討したい。

今後、所管局と調整するとともに、見直しに当たっては、経過措置を設けることも想定している。

「市単独扶助費における各評価について」の資料のうち、A評価、B評価となった事業の中には医師会との調整が必要な事業が多数ある。見直しを進める場合には、市が一丸となって取り組むことが必要である。

市が一丸となって取り組むために、本部会議において本改革プランについて議論し、決定した上で進めていくこととしているところである。

「市単独扶助費の総合評価について」の「1-ア 普遍性」の基準について、社会的な要請に応えられているか、市の総合計画に掲げられた施策と合致しているかといった視点を加える必要があるのではないか。

検討する。

市の施策として市単独扶助費の見直しを行わなければならないことは理解するが、実施に当たっては、地域や各団体等の理解と協力を得ることが必須となる。

B評価、C評価とした事業については、位置付けが曖昧であり、事業の見直しにつながらずに単に先延ばしするだけになる恐れがあると感じる。

曖昧な部分がないよう、表現を見直す。

2 各種イベント等の見直しについて 事務局より資料に基づき説明。

<主な質疑>

イベントについては、従来から相当な削減を行ってきたところであり、企業協賛を頂くなどの努力もしてきている。今後見直しを進めても、大きな効果額は見込めない。

イベント数が多いことは、経費もさることながら、職員の労力の面からも課題があるものと認識しており、見直しを進めていきたい。

- イベントへの職員の関り方について、特に旧4町においては従来から行政との関わり方が旧市とは異なる部分があり、見直しに当たっては地域が混乱しないよう慎重な対応が必要である。

3 各種計画策定の見直しについて 事務局より資料に基づき説明。

<主な質疑>

各種計画の簡素化・統合に当たっては、事務局案よりもっと大胆に、例えば市総合計画の分野別の部分について、各施策の部門別計画として位置付けるなどの見直しが出来ないのか。

検討する。

各種計画の見直しの中で、電子データを原則とし、印刷等は行わないとのことだが、インターネット等の利用ができない方もいるので配慮が必要ではないか。

ご指摘の点は検討したい。概要版は、紙ベースでも作成していく予定である。

4 その他

全体を通じての意見だが、改革プランの策定を契機に、本市をどのようにしていきたいのか、分野別の縦割りではなく、局横断的に議論を深めていきたい。

以 上